

令和8年度

立江小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎基本の定着とそれを活用する力を育成する授業の実践
- 話す力・表現する力をつける授業の実践

校長

大守 謙作

学力向上推進員

校長:大守 謙作 教頭:稼勢 浩子
教務主任:森本千寿子
学力向上・研修主任:横山利恵

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や、研修計画に教員からの定期的な報告を取り入れる等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能は身に付いている児童が多い。与えられた課題にもまじめに取り組める。 ●長文読解に苦手意識をもつ児童や、問題の意図をつかむことに課題がある児童がいる。	・単元テストや漢字テスト等で、クラス平均下学年85点以上、上学年80点以上取ることができる。 ・「長文読解」や「書く」問題で、問題の意図をつかみ、取り組むことができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインや○印を入れさせる。 ・問題の意図をつかめるよう、問題をしっかりイメージしながら読ませる。 ・ケアレスミスを減らすため、しっかり見直す習慣をつけさせる。 ・新聞を活用した学習の時間(NIEタイム)を充実させる。 ・個に応じた授業を工夫する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の意見をしっかりと聞ける児童が多い。 ○課題に対して自分の考えや思いをもつことができる。 ●自分の考えや思いをもつことはできても、伝える力、相手意識をもって表現する力には課題がある。 ●家庭でのアンケートで、「読書をしていない」という児童が多い。	・自分の気持ちや考えを伝えあう楽しさを実感し、進んで発表できる。 ・相手意識をもって聞きやすい声で発言できる。 ・週に1時間以上、読書をする。	・2人組・グループ・全体で、など、様々な場で伝えあう場面を授業に取り入れる。 ・自分の考えを伝えあう楽しさを実感できる授業を工夫する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・何でも言い合える学級づくりをする。 ・週末読書や親子読書の機会を設けたり、市立図書館と連携したりして、本に親しませるようにする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にはまじめに取り組む、できるまで努力することができる。 ●自分から課題を見つけ、よりよくしていこうという能動性・主体性には課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自主学習ノートに意欲的に取り組み、自ら学ぶ楽しさを実感する。	・楽しい授業・熱中できる授業を工夫する。 ・掲示板等で工夫している自主学習ノートのモデルを示す。 ・地域の人材を積極的に活用し、多様な学びができるようにする。 ・縦割り班活動や係活動で、主体的に活動できる場を設定する。			